

生きものモニター通信 vol.02

発行:世田谷区みどりとみず政策担当部みどり政策課 〒154-8504世田谷区世田谷4-21-27 電話:03-5432-2536

水鉢からはじめよう!

つくってみよう!

生きものを呼ぶ
「ちょこっと空間」

「ちょこっと空間」づくり生きものモニター

自宅で作成した水鉢の成長経過を報告していただく取り組みです。いただいた情報は発信していきます。

生きものモニターの

ご協力ありがとうございました!

今回の生きものモニター通信では生きものモニターのみなさんが、自宅でのビオトープづくりを実践する中で工夫したこと、気づいたことをご紹介します。(2~3頁)

こんな生きものの報告がありました!



ヤゴの羽化の様子



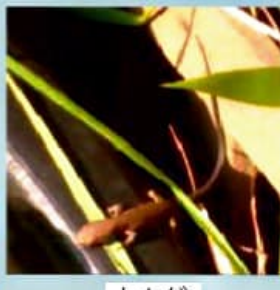
アダンソンハエトリグモ



カマキリ



ショウリョウバッタ



トカゲ



ナガサキアゲハ



イチモンジセセリ

※ヤゴの羽化の様子をちーくんさんより、アダンソンハエトリグモ・カマキリ・ショウリョウバッタ・トカゲをコアジサシさんより、ナガサキアゲハ・イチモンジセセリをふくらすめさんよりご報告いただきました。

モニター制度開始から11月20日までの報告のうち生きものについての報告は8名の方から、39件いただきました。その内訳をご紹介します。

■チョウ類

アゲハチョウ類(7頭^{*1})、モンシロチョウ(2頭)、ヤマトシジミ(2頭)、イチモンジセセリ、ナガサキアゲハ、不明^{*2}(2頭)、幼虫の合計15頭

<発見時の様子>・アゲハチョウの交尾・イチモンジセセリ、ナガサキアゲハの吸蜜

■トンボ

アオイトトンボ、ハグロトンボ、不明^{*2}、ヤゴ (2匹)の合計5匹

<発見時の様子>・ヤゴの脱皮や羽化

■その他の種類

アシナガバチ(2匹)、ハチ(不明^{*2} 2匹)、トノサマバツ

タ、ショウリョウバッタ、カマキリ、アダンソンハエトリグモ、トカゲ(3匹)の報告がありました。

■鳥類

ハト(3羽)・シジュウカラ(2羽)・スズメ・カラス・メジロの合計8羽

<発見時の様子>・ハトが水を飲みに来ていた・カラスが水浴びをしていた。

家の周りに水鉢が増えたことでこれまでとは少し違うみどりの環境がつけられ、これまでよりも注目して生きものを観察して下さったモニターの方もたくさんいらっしゃったようです。

ご報告ありがとうございました!

※¹チョウは学術・専門的には「1頭、2頭」と数えます。

※²報告時に種名(例:チョウ)、特徴のみの報告

(例:お尻が黒く丸いハチ)の場合は「不明」でまとめています。



我が家の水鉢 このように工夫しました！



ベランダに設置

裏庭に設置

玄関先に設置

植木鉢のかけらで水鉢内を仕切る

水鉢周辺の植栽を工夫

講習会ではヒメダカ、ヒメスイレン、伊勢サビ(砂利)の配布でしたが、他にも生きものや植物を追加したり、水鉢内や周辺の環境を工夫したりと、各ご家庭でそれぞれ特色のある「ちょこっと空間」を作っていました。

【水鉢の設置場所】

ベランダ10名、庭9名、玄関付近6名、車庫付近2名

【水鉢に加えた植物】

ホテイアオイ(4名)、アナカリス(3名)、ヒメスイレンの追加(3名)、ミズトクサ(2名)、キンギョモ、黄斑姫アシ、ウォーターバコパ、ハンゲショウ、ミニシペラス、ナガバオモダカ、ウチワゼニクサ、ウォーターレタス、シラサギスゲ、ウォーターコイン、トワダアシ、クレソン

【水鉢に加えた生きもの】

モノアラガイ、タニシ、エビ(ミナミヌマエビ)、メダカの追加

【水鉢内部の工夫】

植木鉢のかけら、大小の石、プラスチックの土ストッパー、公園で拾った枝や剪定した枝、竹など様々な材料で水鉢内を仕切る。鉢内に炭や砂利ネットを入れて水を綺麗にし、高低差を付けるなど、生きものに良い環境をつくる。

【水鉢周辺の工夫】

生きものが通る道のマリーゴールド・コスモスやナス・チューム・サンショウ・ゲッケイジュの寄せ植え、ツルの生えるパッションフルーツやエンドウの鉢植えなど、水鉢の周辺にも植栽をした。ヒマワリを育てたり、すだれを立て掛けたりすることで日陰を作り出す。生きものが呼べるよう、水鉢の下に伊勢サビを敷く、周辺にゴロタ石を設置する。

以上のようにモニターのみなさんからさまざまな水鉢の工夫が報告されました。

報告書に寄せられた疑問を解決！

フラワーランド 荻野専門員より

ヒメスイレンは冬場には上部が枯れ、葉が溶けていくものです。地下茎は生きていて、暖かくなると新しい葉が出てきます。今年一年栽培して株が大きくなっているの、日照条件の改善により開花が期待されます。肥料を与える場合は、ニボシや身欠きニシンを土の中に挿して置きます。

ビジターセンター 宮村専門員より

メダカがなくなる原因として、水質、メダカの寿命、他動物による捕食が考えられます。捕食の対策として水鉢の上に藁を置くなどしてみたらどうでしょうか。またメダカの数が少ないと縄張り争いが多くなります。メダカを増やすと縄張り争いを減らすことができます。

ちょこっと空間講習会 講師の泉先生より回答

アオミドロのような藻類が増えすぎるのは、水中に肥料分が残っている証拠です。殖えすぎたら取り除くことを繰り返す内に余分な肥料を使い果たして少なくなってくると思います。気になる人は、稲ワラの束を一掴みほど水に浸けておくと、ワラの成分(アレロパシー効果)で減らすことが出来ます。ただし農薬が残っているワラだとメダカが死んでしまいます。購入する際に確認した方が安全です。

《ヒメスイレンについて》
・ヒメスイレンの元気がない
・葉が枯れた色になってきた
・花が咲かない

《ヒメダカについて》
・水鉢からいなくなってしまふ、死んでしまふ。
・メダカ同士がけんかしてしまう

《水鉢全体について》
・水鉢の中で藻が繁殖してしまふ、困っている。
原因や対策は？



11/20までの報告 観察シート③



akaさん

ryukopineさん

アイズバーグさん

キノさん

ケンちゃんママさん

コアシサジさん

せたがやたがやせさん

ちーくんさん

匿名希望

敏道さん

なまむさん

ふくらずめさん

ほけきよさん

メダカ100さん

ゆなっぴさん

ビジターセンター

フラワーランド

みどり政策課

第三回目のモニター報告は15名のみなさんからご提出いただきました。モニター制度開始から現在に至るまで、水鉢内の生きものの増減や周辺の植物の変化があったことと思います。そのような中、現在の水鉢の写真をご報告いただきました。お送りくださったみなさま、ありがとうございます。

ちょこっと空間モニターを通して

みなさんのご感想を一部ご紹介！

■庭に置いて、花も生けると、通り掛かりの人々がのぞき込んでいました。5歳の子どもも、毎朝5匹のメダカたちが元気良く泳いでいるのを、報告してくれます。(あいかママさん)

■生きものと共存していくを感じています。ペットを飼うのとは違い、いろんな生きものがいて、植物があり、水があり、そして、集まる。街を歩いていて、植物や生きものに気づくようになりました。(ゆなっぴさん)

■生きものが沢山来てくれる...と思いましたが、そんなことも無く、メダカは二匹に減りました。ペットショップで買ったタニシの仲間の貝にスイレンを全部食べられてしまい、スイレンも買い足しました。貝はすぐにペットショップに返したのですが、タマゴ(?)を生んでいたようです。小さな貝が沢山います。ビオトープの道は厳しいですね。(キノさん)

■先日送られてきた『モニター通信』で、皆さんが素敵に工夫されているのを見てとても参考になりました。また、報告しなくちゃというプレッシャー(?)は見栄えも良くなくてという動機付けにもなりました。水鉢は緑も生きものも楽しめて良いですね。(ほけきよさん)

■朝ふと見るとヤゴが脱皮してトンボになってました。マンションのベランダですがビオトープを作ったことに良かったと思った瞬間です。(ちーくんさん)

■ヒメダカの生態や蚊の生態について興味を持ち知識を深めるきっかけとなった。(Mさん)

■草花を選ぶとき生きものが好むかどうかを気を付けるようになった。もっと生きものを呼ぶためにはどうしたらいいか、環境について考えるようになった。(ふくらずめさん)

■元々観葉植物が好きで緑のものは買い集めて来てはいましたが、今回花が咲くものを取り入れて、花もたまにはいいなと少し視点が広がったと思います。来年は呼びたい生きものを絞ってそれに特化していきたいです。(akaさん)

【事務局から】

生きものモニターを通じて、様々なことを感じていただくことが出来たようで嬉しいです。引き続き、ビオトープを楽しんでいただけたらと思います。

？ 水鉢の管理方法にお悩みの方はフラワーランド(瀬田農業公園)園芸相談をご利用ください。

毎日(年末年始を除く)午前10:00〜午後4:00 (電話相談も可能です) 03-3707-7881

※都合により園芸相談員が不在場合があります。来訪の場合は、電話にて事前にご確認ください。

今年度のちょこっと空間づくりモニター制度の報告を踏まえて生きもの・植物それぞれの(一財)世田谷トラストまちづくり専門員からお話をいただきました。

ビジターセンター 宮村専門員から

冬の時期(11月から3月くらい)、水鉢の水温が10℃を下回るようになるとメダカは冬眠状態になります。また、メダカは物陰に隠れて冬眠する習性があるので、木の枝や落ち葉を水鉢に入れておくといいいでしょう。水深が浅くなっているとメダカが氷漬けになってしまうので注意が必要です。水が少ない場合は、冬眠したメダカに刺激を与えないように、水鉢の水を過度に揺らさないように補給しましょう。春になり水温が上がってきたら少量のエサをあげるといいと思います。もし水鉢にヤゴがいたらメダカやアカムシなどを捕食します。生きものの循環がそこで行われているのかもしれませんが、メダカが少ない場合は一旦ヤゴを他の容器にうつしておきましょう。メダカはたくさんの卵を産む可能性がありますので、そんなときはヤゴをそのままにして、生きものの循環を水鉢を通して感じるのもいいかもしれませんね。

私のいるビジターセンターでは、ボランティア団体「せたがや野川の会」の協力のもと、野川に生息する魚(メダカ、ナマズ、モツゴ、ドジョウなど)を紹介する水槽展示「野川水族館」があります。魚の給餌は来館した子どもに体験してもらいながら、魚の食べる様子を観察してもらっています。生きものを飼育する上で、生きものの様子を「みる」ことは大切です。「みる」には「見る・観る・診る・看る・視る」など色々な視点が入ります。観察するだけでなく、聴診したり、看護したりすることも必要になります。私は、子どもたちに素敵な世田谷の自然を伝えていければと活動しています。是非、ビジターセンターにお越しください。

ビジターセンター
・所在地…成城4-29-1
野川緑地広場内
・TEL…03-3789-6111
・開館時間
午前9:00～午後5:00
・休館日…月・火曜日
※祝祭日は開館で、次の平日が休館



フラワーランド 荻野専門員から

冬から夏にかけての水鉢の管理として、水鉢内の枯葉をメダカの隠れ場所としてある程度残し、全体の掃除をしましょう。すべての枯葉をそのままにしておくとも水が腐るおそれがあります。スイレンの植え替えは不要です。また冬越えをしたヤゴが見つかるかもしれません。掃除の際はよく確認してみてください。

1年間の水鉢の観察でさまざまな発見があったと拝察いたします。これらの気づきは水鉢を実際に管理してみなければ経験できないことです。夏の間、微生物のため濁りがちの水も、寒くなるにつれ澄んでくることを観察された方は季節の移ろいを体感できたかもしれません。水鉢を一つの生態系としてとらえる今回の企画ではヒメスイレンに施肥したり、メダカに餌を与えることは勧めませんでした。そのため、スイレンは花を咲かせることはなく、メダカも目に見えて殖えはしなかったと思います。自然のままでは増えることより減ることが多いことを気づいた方も多くいらしたのではないかと思います。1種類の生物だけが殖えることなく安定した状態がまさに自然です。水鉢に生きものが来ないかと目をこらすことで、周囲の自然のなかに新たな発見があったことは一つの収穫です。普段見慣れているはずの風景のなかに思わぬ発見をすることは嬉しいことと思います。「園芸は植物の育つ過程を楽しむこと」という言葉があります。種をまき、育て、鑑賞、収穫する。一見同じことの繰り返しの様に見えますが同じ結果にはなりません。これを機会に身近な環境に目をむけていただけるようなきっかけになれば幸いです。

瀬田農業公園(フラワーランド)

・所在地…瀬田5-30-1
・TEL…03-3707-7881
・開園時間
午前8:30～午後6:00
(10月から3月は午後5:00まで)
・休園日
年末年始(12月29日～1月3日)
※園内管理のため臨時休園する場合があります。



～世田谷区みどり政策課から～

近年、様々な生きものと、そのつながりは刻一刻と失われつつあります。そこで、暮らしの中で、生きものと触れ合い楽しみながら、生物多様性を意識したライフスタイルを実践していただけたらと、はじめて「生きものを呼ぶ」ということに焦点を当てた講習会を実施しました。試行錯誤でしたが、みなさんからたくさんのご参加とご報告をいただき、とても嬉しく思っています。ご協力ありがとうございました。

世田谷に生きものを呼ぶちょこっと空間が広がっていくよう、来年度以降も講習会とモニター募集を行い、ニュースレターも発行していきます。ちょこっと空間は、生きものにとって移動や繁殖のための大切な場所です。引き続き、ちょこっと空間づくりを通して、生きものと共に暮らす生活を楽しんでいただければ幸いです。